

2019 年 8 月 26 日
三菱電機株式会社

NEWS RELEASE

施設の利便性を向上させ、共生社会の実現に貢献 「ダイナミックサイン」の国際標準化に向けた実証実験を実施

三菱電機株式会社は、2019 年 8 月 29 日から 9 月 1 日まで武蔵野の森総合スポーツプラザ（東京都調布市）で開催される車いすバスケットボール男子日本代表 国際強化試合「三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP 2019」の会場内で、床面などにアニメーションを投光することで、施設内の誘導や注意喚起などの動くサインを表示する「ダイナミックサイン」の国際標準化に向けた実証実験を行います。

今回の実証実験は、経済産業省から一般財団法人日本規格協会への委託事業「ダイナミック・サイニングに関する国際標準化」（国立研究開発法人産業技術総合研究所と当社の共同提案）の一環として行うものです。

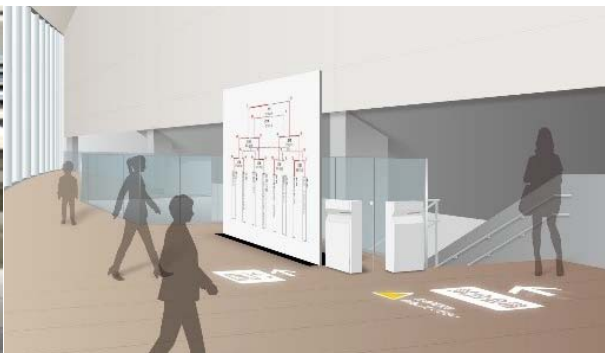
当社は「ダイナミックサイン」の国際標準化を通じて、誰もがさまざまな施設を利用しやすくすることで、共生社会※1の実現と世界的な目標である「持続可能な開発目標（SDGs※2）」の達成に貢献することを目指します。

※1 あらゆる人が活躍できる社会

※2 Sustainable Development Goals：国連総会で採択された 2030 年に向けた「持続可能な開発目標」



「ダイナミックサイン」の表示例



実証実験のイメージ

国際標準化に向けた活動の背景と内容

光のアニメーションを用いた動くサインによる施設案内は国内外で利用が始まっていますが、視認性やアクセシビリティ（利用のしやすさ）に関するガイドラインはありません。

当社は、駅やスポーツ施設などさまざまな施設やイベントで「ダイナミックサイン」の実証実験を行い、視認性やアクセシビリティなどのデータを収集・分析し、各施設が抱える誘導に関する課題への解決方法としての有効性を確認してきました。これまで収集したデータから、視認性やアクセシビリティなど「ダイナミックサイン」の条件を定義し、国立研究開発法人産業技術総合研究所と共同で、ISO※3に国際標準化を提案しました。今回、この国際標準化に向け必要な活動の一環として、提案した規格に準拠したコンテンツを用いた実証実験を行います。

本活動は、日本から世界に向けた「ダイナミックサイン」に関する世界初の国際標準化活動となります。

※3 International Organization for Standardization（国際標準化機構）

実証実験の概要

期間	2019 年 8 月 29 日～9 月 1 日
場所	武蔵野の森総合スポーツプラザ（東京都調布市）
実験テーマ	視認性やアクセシビリティなど、「ダイナミックサイン」の条件を確認
実験内容	光のアニメーション「ダイナミックサイン」を用いて、観客席やエレベーターへの誘導案内を実施

報道関係からの
お問い合わせ先

〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 3 号 TEL 03-3218-2359 FAX 03-3218-2431
三菱電機株式会社 広報部

今後の展開

今回の実証実験により、外国人、高齢者、車いす利用者などさまざまな方にとって分かりやすいダイナミックサインの要件を検証し、国際標準化に向けて国内外の意見を集約していきます。

特許

国内 2 件、海外 8 件取得済
国内 3 件、海外 12 件出願中

開発担当研究所

三菱電機株式会社 デザイン研究所
〒247-8501 神奈川県鎌倉市大船五丁目 1 番 1 号
FAX 0467-41-2142
http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/randd/inquiry/index_id.html